長崎県感染症情報センター

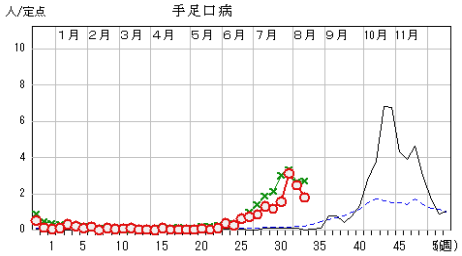
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2022年第33週　　2022年8月15日（月）～ 2022年8月21日（日）　2022年8月25日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

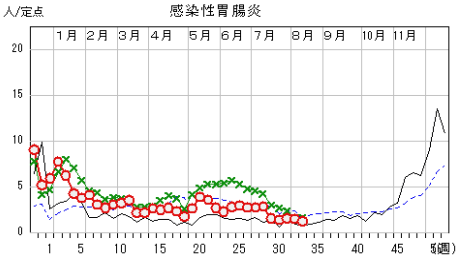
（１） 手足口病

第33週の報告数は79人で、前週より30人少なく、 定点当たりの報告数は1.80であった。
年齢別では、１歳（39人）、２歳（15人）、１歳未満（10人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（4.83）、五島保健所（4.25）、県北保健所（2.67）であった。



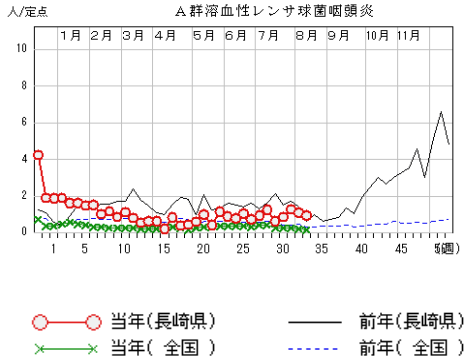
（２） 感染性胃腸炎

第33週の報告数は54人で、前週より13人少なく、 定点当たりの報告数は1.23であった。
年齢別では、10～14歳（14人）、１歳（8人）、３歳（5人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（2.83）、壱岐保健所（2.50）、県北保健所（2.00）であった。



（３） Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第33週の報告数は42人で、前週より6人少なく、 定点当たりの報告数は0.95であった。
年齢別では、10～14歳（11人）、３歳（7人）、２歳（6人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（8.40）であった。



☆上位３疾患の概要

【手足口病】
第33週の報告数は79人で、前週より30人少なく、 定点当たりの報告数は1.80となりました。地区別にみると佐世保地区（4.83）、五島地区（4.25）、県北地区（2.67）は他の地区より多くなっていますので注意が必要です。
手足口病は、例年5月頃から報告数が増加し、夏場にピークを迎えます。本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染が主体で、飛沫感染や水疱内容液からも感染します。急性期に最もウイルスの排泄量が多く、回復後も2週間から4週間程度は、便中にウイルスが排泄されるため感染源となりえますので、保護者は乳幼児に手洗い、うがいを励行させて、感染防止に努め体調管理に気をつけてあげましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、保護者は早目に医療機関を受診させてあげるよう心掛けましょう。

【感染性胃腸炎】

第33週の報告数は54人で、前週より13人少なく、 定点当たりの報告数は1.23でした。地区別にみると県央地区（2.83）、壱岐地区（2.50）、県北地区（2.00）の定点当たり報告数は他の地区より多くなっています。今後も予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第33週の報告数は42人で、前週より6人少なく、 定点当たりの報告数は0.95でした。地区別にみると県南地区（8.40）の定点当たり報告数は他の地区より多く、警報レベル開始基準値「8.0」を超えていますので特に注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

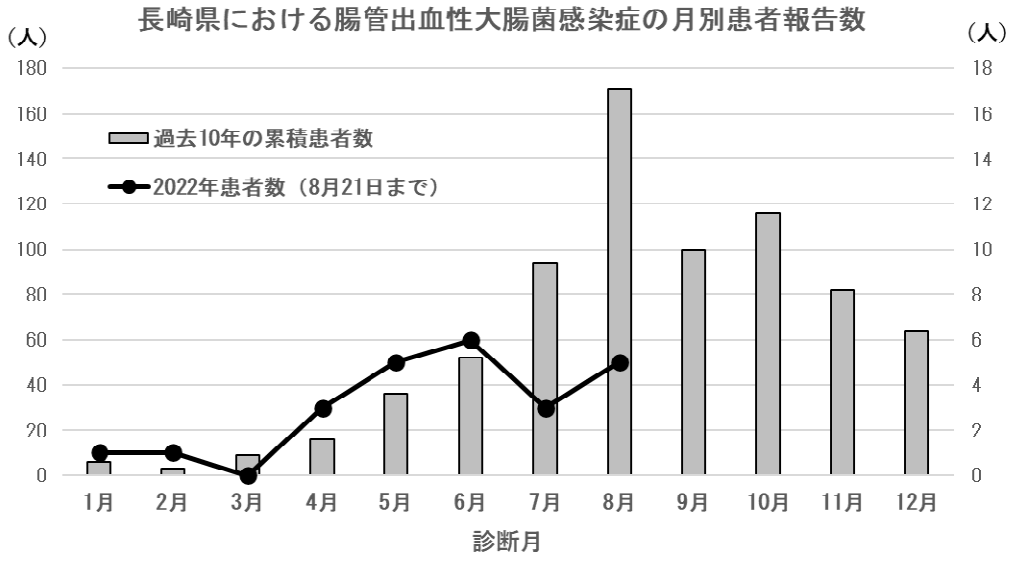
腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。

主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2日から9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6%から7%が、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。

県内では、2022年第33週までに腸管出血性大腸菌感染症が24例報告されています。

例年夏期に発生が多い傾向にありますので、次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。また、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

〇外出から帰ってきたときやトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
〇肉類を調理する際は十分に加熱しましょう
〇生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用後すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう
〇下痢症状のあるときはプールの使用や入浴は控え、シャワー浴または最後に入浴しましょう



◆全数届出の感染症

２類感染症：　報告なし

３類感染症：　腸管出血性大腸菌感染症　患者　男性　（10歳未満・1名、30代・1名）
無症状病原体保有者　男性　（10歳未満・1名）

４類感染症：　報告なし

５類感染症（全数把握対象）：　侵襲性インフルエンザ菌感染症　患者　男性　（70代・１名）

※新型コロナウイルス感染症の発生件数については、長崎県ホームページに掲載しています。

◆定点把握の対象となる５類感染症

（1）　疾病別・週別発生状況　　（第28～33週、7/11～8/21）

疾　患　名	定点当たり患者数					
	28週	29週	30週	31週	32週	33週
	7/11～	7/18～	7/25～	8/1～	8/8～	8/15～
インフルエンザ					0.01	0.03
ＲＳウイルス感染症	0.44	0.14	0.41	0.32	0.36	0.11
咽頭結膜熱	0.16	0.27	0.23	0.07	0.09	0.05
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.26	0.61	0.86	1.27	1.09	0.95
感染性胃腸炎	2.86	1.55	1.41	1.57	1.52	1.23
水痘	0.02	0.05	0.07		0.07	0.09
手足口病	1.30	1.18	1.57	3.14	2.48	1.80
伝染性紅斑（リンゴ病）						0.02
突発性発しん	0.51	0.34	0.23	0.34	0.11	0.25
ヘルパンギーナ	0.21	0.02	0.16	0.02	0.05	0.16
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.07	0.02	0.02			
急性出血性結膜炎						0.13
流行性角結膜炎	0.38	0.13	0.63	0.25	0.13	0.25
細菌性髄膜炎						0.08
無菌性髄膜炎						
マイコプラズマ肺炎						
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

（2）　疾病別・保健所管内別発生状況　　（第33週、8/15～8/21）※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾　患　名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.03	0.18									
ＲＳウイルス感染症	0.11				0.25	0.67					
咽頭結膜熱	0.05					0.17		0.33			
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	0.95						8.40				
感染性胃腸炎	1.23	1.83	1.00	2.50	0.25	2.83	0.60	2.00		0.50	
水痘	0.09	0.17	0.10			0.17					0.50
手足口病	1.80	4.83	0.80		1.00	2.00	0.20	2.67	4.25		
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.02		0.10								
突発性発しん	0.25	0.33	0.10	0.50		0.67	0.60				
ヘルパンギーナ	0.16		0.10			0.17			1.25		
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎	0.13						1.00				
流行性角結膜炎	0.25						2.00				
細菌性髄膜炎	0.08		0.33								
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎											
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											